

第 19 回介護福祉士 国家試験 問題・解説（やまだ塾）

＝⑤社会福祉援助技術<一問一答>＝（問題 27～問題 31）

（2007 年 5 月 7 日 HP 掲載）

【社会福祉援助技術（演習を含む）】

問題27 高齢者虐待への対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 主治医との連携、ショートステイの利用などの緊急対応体制をあらかじめ整えておく。
- B. 高齢者は、虐待されていても、そのことをあきらめたり我慢していることがある。
- C. 被害高齢者の利益を守るために、加害者である家族への支援を控える。
- D. 高齢者虐待の有無に関連があるものとして、家族介護者と高齢者との人間関係が挙げられる。

（組み合わせ）

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問題 27: 正答 2○0×0

- A.○虐待を受けている高齢者が「生命に関わる危険な状態である」場合など緊急に分離、保護する必要がある場合に対応できるよう、各種の入所施設の空き状況や緊急入院の受け入れのできる医療機関を把握しておくとともに、緊急対応用のショートステイ床を確保しておくことも有効である。
- B.○虐待を受けている高齢者自身が、「自分さえ我慢していれば」と、世間体を気にし、虐待者をかばってしまうことが多いといわれている。また、虐待を受けている高齢者は、虐待を指摘されても、「これは自分の不注意でできた傷」などと否定することも多いといわれている。
- C.×高齢者虐待では虐待している家族にもさまざまな困難や障害があるため、「加害者・被害者」という一面的な見方は禁物であり、高齢者と家族を共に支える取組みが不可欠である。
- D.○援助の際に目を向ける必要のある全体状況として、①高齢者自身の状況、②介護者や家族の状況、③高齢者と介護者、家族・親族との人間関係の状況、④近隣・地域との関係や社会的支援の状況、が挙げられる。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

問題28 直接相談の原則に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 利用者が沈黙した場合は、すぐに話題を転換する。
- B 閉じた質問を行うと、利用者は、自らの考えや気持ちを具体的に述べることができる。
- C 利用者の発言内容のほかに、声の調子、表情、視線、身体の動き等を観察する。
- D 面接者は、自分の価値観や倫理観を押し付けないようにする。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	×	○	○

問題 28: 正答 5 × × ○ ○

A. × 沈黙は、黙って何もしていないように見えるが、自分の考えをまとめたり、面接者の反応を見たりすることもある。沈黙を見守り、その意味を理解しようとするなど、利用者の態度や感情を受け止めることが重要である。

B. × 閉じられた質問(closed question)は、答えの幅が限定されるような質問で、代表的には「はい、いいえ」の一言で答えられる質問である。開かれた質問(open-ended question)は、答えの幅が広い質問で、利用者は自分の考えや気持ちを具体的に述べたり、話の方向を左右したりする余地が広い。

C. ○ 利用者の言語的態度だけでなく、非言語的態度にも気をつけて利用者の感情や状況を理解することが重要である。

D. ○ 人はすべて自分なりの価値観を持ち、何に価値を置くかはその人によって異なる。介護従事者は、利用者を自分の価値観で判断したり、自分の価値観を押し付けたりすることがあってはならない。利用者の立場に共感する姿勢が必要で、利用者の悩みや不安を十分に受け止めながら、利用者の主訴に耳を傾け、本人が持っている潜在能力にも注目する。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題29 グループワークの実施に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 援助者は、性別、年齢、疾病、障害、日常生活動作(ADL)、人間関係等の参加者の特性を考慮す

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

る。

B 援助者は、参加者の人数、開催時間、回数、期間等について計画を立てる。

C 援助者は、あらかじめ参加者の役割を決めて提示する。

D 援助者は、参加者個人のとグループ全体を対象に、観察と支援を行う。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	×	○

問題 29: 正答 2○○×○

A.○グループワークにおける「個別化の原則」とは、「グループ内の個別化」と「グループの個別化」の両面を持っている。「グループ内の個別化」は、グループを構成する個々のメンバーが、個性を持っている個人が個性を失うことなく、グループ活動に取り組めるように、その個人差を理解して、集団の相互作用のなかで成長や発達を図ろうという原則である。また、「グループの個別化」とは、同じようなグループであっても、それぞれ独自の性格をもつことを理解し、その特徴を把握した支援を行うという原則である。

B.○グループワークの特徴は、集団過程がプログラム活動(計画、実施、評価)という援助媒体を通して行われることにある。プログラム活動計画の立案においては、メンバーの興味、関心を把握し、メンバーの意見が十分に取り入れられることが重要である。

C.×援助者の役割は側面からの支援であり、「あらかじめ参加者の役割を決めて提示する」ことはメンバーの主体性を軽視した不適切な対応である。

D.○上記 A の解説を参照のこと。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題30 ケースカンファレンスに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

A. 援助目標や方針を共有する。

B. 援助活動を追体験し、共感的な理解を深める。

C. 援助技術を向上させるための方策を導き出す。

D. アセスメントは援助活動が終結してから行う。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 30: 正答 1○○○×

●ケースカンファレンス(ケアカンファレンス, サービス担当者会議, 事例検討会)は, 複数の関係者が援助過程で的確な援助を行うために, 利用者の意思をふまえた援助方針を検討し, 各自の役割分担を確認し, 連絡・調整を行う会議をいう。

A.○, B.○, C.○, D.× (ケアマネジメントの過程は, スクリーニング→インテーク→アセスメント→プランニング→実施(援助活動)→モニタリング→エヴァリュエーション→終結である)

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題31 ボランティアコーディネーターの役割に関する次の記述のうち, 適切なものに○, 適切でないものに×をつけた場合, その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A ボランティア希望者には, 登録をする前に, 利用者と直接接しニーズを把握してもらう。
- B ボランティアの受け入れについて, 事前に利用者に説明し了解を得る。
- C ボランティアには, 守秘義務について理解してもらう。
- D ボランティアには, 活動中の事故等に備え, ボランティア保険に加入することをすすめる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	○	×	×

問題 31: 正答 4×○○○

●ボランティアコーディネーターは, ボランティア活動を「したい人」と「してほしい人」とを結ぶパイプ役であり, 調整役であり, ボランティアを円滑に受け入れ, 効果的な活動へ導く重要な役割を担っている。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

●現在、日本では、法的・制度的な資格として確立されていないが、地域福祉の推進ための活動に携わる専門職を「コミュニティワーカー」と呼ぶことがある。一般的には、社会福祉協議会の職員などが相当する。代表的な職名としては、①福祉活動専門員、②福祉活動指導員、③企画指導員、④地域福祉活動コーディネーター、⑤ボランティアコーディネーターなどである。ボランティアコーディネーターは市町村社会福祉協議会などに設置され、資格要件はない。1985年に「福祉ボランティアのまちづくり事業」(ボラントピア事業)が市町村社会福祉協議会を対象として開始され、ボランティアコーディネーターの必要性が認識されるようになってきた。その役割は、ボランティア活動の希望者の条件整備、活動者への支援などである。

●活動時間を守る、参加できないときは事前に連絡をする、規則や会費などの約束ごとを守る、活動で知れたプライバシーや秘密は守るという守秘義務があることなど、団体活動の一般的・基本的なルールを守ることを徹底することは重要である。

A.×(常識的に考えても順序として不適切である)、B.○(ボランティア活動を「したい人」と「してほしい人」とを結ぶという点から、受け入れの意思やしてほしい内容を確認しておくことが重要である)、C.○(上記の解説を参照のこと)、D.○(ボランティアに対し活動前に保険の加入を確認し、事前オリエンテーションをする)

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

(社会福祉援助技術(演習を含む。)・事例問題)

次の事例を読んで、問題32から問題34までについて答えなさい。

(事例)

Sさん(85歳、男性)は、3年前に脳梗塞を発症し、その後遺症として右片麻痺があり、車いすで移動している。食事は時間がかかるが何とか一人で食べている。しかし、排泄や入浴には介助が必要である。今までは自宅で妻(82歳)と二人暮らしであり、妻が身の回りの世話をしていたが、妻も1か月前に脳梗塞で倒れて病院に入院した。

妻は倒れたときから意識障害があり、大きな声のするほうに視線が動く程度で、発語することはない。子どもは二人いるがどちらも遠方に住んでいて、Sさんの世話ができる状態ではない。家庭での生活は継続困難となったため、妻の入院後、介護老人保健施設に入所した。

Sさんは、施設での生活になかなか慣れず、他の利用者と会話することもなく、自室のベッドに横になり、ぼんやりと窓の外を眺めていることが多い。Sさんに声をかけると、「病院に面会に行きたい。自分も妻と同じ病院に入院し、妻の世話を少しでもしてやりたい。そして早く自宅に戻って今までどおりの生活をしたい」と強く訴えている。

問題32 Sさんへの援助に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. Sさんとの会話の中で、妻が行っていた身体介護の仕方などを話題にする。
- B. 散歩に誘うなどして、信頼関係の形成に努める。
- C. Sさんがぼんやりしているのは、脳梗塞の病状悪化であると判断し、二人の子どもに伝える。
- D. Sさんの身体苦痛だけでなく、精神的苦痛や願いについても理解するよう努める。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 32: 正答 2○○×○とされているが、設問 A を正しいとする「できのよくない問題」である。やまだ塾は 4×○×○が正答とするが、せめて 2・4 の複数正答の配慮が必要である。

A. ○or ×。この設問が○という絶対的な根拠があれば示してもらいたい。むしろ、1か月前の事故で強くショックを受けており、妻への思いの強い状態であるのに、「妻のことを話題にする」ことは、さらに状態を悪化させる恐れがあり、不適切な「社会福祉援助技術」であろう。さらに、介護者が独断で行った様子でありこれも不適切な対応である。

B. ○社会福祉援助技術では基本的信頼関係をラポールという。利用者が介護従事者に抵抗を感じることなく信頼関係を保ち、介護従事者が利用者に共感し、受容する態度で接して、信頼感を保つという相互の関係で成り立つものである。

C. ×脳梗塞の病状悪化であると判断するのは「医師」であり、介護者が行うことはできない。さらに、本人の了解なしに二人の子どもに伝えてならない。

D. ○介護従事者は、身体苦痛だけでなく、喪失感や心の痛みを理解すること必要である。利用者の苦しさや・つらさを感じ取れる共感が大切であり、そのうえで客観的に利用者の問題を考える。同時に、全面的に介護するのではなく、自立に向けた最低限の援助を行うことが基本となる。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題33 Sさんの訴への対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. Sさんの話をじっくり聞き、思いを受け止める。
- B. 妻との面会の段取りについてケースカンファレンスで話し合う。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

- C. Sさんの言動への直接的対応だけでなく、施設における生活全体の支援のあり方を考える。
 D. Sさんに「訴えるだけでなく、現状をわかってほしい」と頼む。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問題 33: 正答 1○○○×

A.○介護従事者は、利用者の訴えに耳を傾け(傾聴)、利用者の立場に立って理解する(共感)ことが求められる、それに伴って、介護従事者は利用者の訴えの要因を探り、その要因が利用者自身にも認識できるように支援することが重要である。

B.○問題 30 の解説を参照のこと。援助内容の見直し、サービスの変更が必要になった場合にも開催される。

C.○「介護老人保健施設」に入所とあり、この施設は医療施設と福祉施設、また地域社会と過程を結びつける中間施設として位置づけられている。施設サービス計画に基づいて、多くは介護を中心にしたサービスが提供されるが、集団生活の利点を生かして、仲間とのふれあいや地域との交流を考慮して、社会生活の場を広げていく支援を配慮しなければならない。

D.×「頼む」のではなく「利用者の訴えを傾聴し、共感する」ことが重要である。上記 A の解説を参照のこと。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題34 Sさんの今後の方針づくりのための、ケースカンファレンス開催にあたり考慮すべきことに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. Sさんと子どもたちに出席してもらい希望や意見を述べる機会をつくる。
 B. 妻の入院生活の様子について情報を、病院から入手する。
 C. Sさんと妻が住み慣れた環境で生活できるように、自宅の浴室やトイレの改修を依頼する。
 D. Sさんのリハビリテーション計画についての提案を、理学療法士に求める。

(組み合わせ)

A B C D

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

1 ○ ○ ○ ×
 2 ○ ○ × ○
 3 ○ × × ○
 4 × ○ × ×
 5 × × ○ ○

問題 34: 正答 2○○×○

A.○利用者に適切なサービスを提供するためには、利用者や家族の希望や意見を聞くことが重要であり、情報、援助方針、援助の目標、援助の方法などを家族と共有することが必要である。

B.○妻の状況は利用者の今後の方針づくりには重要な要素となるため、利用者および家族の了解を得て妻の情報を入手することは適切である。

C.×医療および療養上の世話が流動的な段階であり、自宅への復帰を前提として、「自宅の浴室やトイレの改修を依頼する」ことは依頼内容・時期ともに適切ではない。

D.○ケースカンファレンスでは、複数の関係者が、利用者の意思を踏まえた援助方針を話し合う場であり、リハビリテーション計画については理学療法士の役割であり、提案を求めることは適切である。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】